（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年３月 31 日

県立中央農業高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月６日実施）	総合評価（３月 22 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の意欲を高める新たな教育課程を編成し、確かな学力及び農業に関する専門性の向上を図る。	①1 人 1 台端末を活用しながら、新しく編成された教育課程を運用・展開し、授業改善を進める。また、カリキュラム実施状況を検証する。	①1 人 1 台端末を活用しながら、各教科において目標を明確に提示し、生徒がその目標達成について自ら振り返り、考える授業を展開するために、研修等の工夫を行う。	①生徒が自ら考え、主体的に取り組む授業を展開することができたか。また、授業力向上のための職員研修を適切な時期に行うことができたか。	①1 人 1 台端末のみならず電子黒板の導入等も相まって、デジタル機器を有効に活用した授業展開が定着しつつある。このことにより、目標を踏まえて自ら考え、判断して表現する生徒の姿勢が看取されるようになった。	①大半の生徒がデジタルネイティブである反面、職員の習熟度に改善の余地がある。時期とテーマを適切に見定めたうえで、引き続き研修を実施し、総合的な授業力の向上を図ることが必要である。	①今年度にあってもコロナ禍が続いている。そのような中、生徒のデジタル機器の導入等が定着して、タブレットでの学習はオーソドックスなスタイルになってゆくものと考え、取組みとして重要かつ着実な成果が上がっていると評価する。	①デジタル機器を有効に活用した授業展開が定着しつつあり、授業改善が進んだと評価できる。今後は職員全体の習熟度を上げることが課題となる。	①デジタル機器を活用した授業展開において、具体的な活用例を各教科ごとに検討して、研修を行う。
		②生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動や農業クラブの活動を充実させる。	②専門科目及び農業クラブ活動でプロジェクト学習法を習得し、課題解決能力の向上を目指す。	②コロナ禍での状況を考慮した農業クラブ活動を行いながら、各種発表会や研究の成果発表を行うとともに、地域貢献活動への参加を積極的に行う。	②コロナ禍において、コロナウイルス感染症対策を講じた工夫を施した活動実績をあげることができたか。	②コロナ禍であっても各競技に工夫をしながら農業クラブ活動を行うことができた。また、徐々に様々な大会が再開され積極的に出場し入賞を果たすなどの成果を上げた。	②感染防止の観点から様々な行事の計画と運営には特に気を遣いながら臨んだ。生徒たちのために競技会をできるだけ中止しないように工夫をしたが、その方法や出題に改善を要することがあった。	②生徒の主体的活動である各競技会やクラブ活動がコロナ禍の中、徐々に再開され、立派な成績を収めていることを評価する。引続き感染対策にも気を遣いつつ、生徒にとって良い経験と思い出になるよう進めてもらいたい。来年度も期待する。	②コロナ禍における活動が制限される中、農業クラブ活動は継続して実践されている。より多くの生徒が課題解決能力の向上を目指すことを次年度以降も課題とする。	②継続して専門科目及び農業クラブ活動でのプロジェクト学習法の習得と課題解決能力の更なる向上を目指すため、教員の意識向上を図る方策をとる。
2	生徒指導・ 支援	①基本的な生活習慣を確立・定着させるとともに、規範意識の醸成を図り、部活動を活性化させ、豊かな人間性、社会性を育む。	①挨拶の励行やコロナ禍における新たな生活習慣の指導を通して、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の定着を目指す。	①コロナ禍における新たな生活習慣の確立と、時間を意識した自己管理能力の定着の両立を目指し登校指導やSHRを活用する。	①健康観察の習慣をつけることができたか。また、登校指導や声掛けを通して生徒の遅刻等の状況が改善されたか。	①クラス担任を中心とした毎朝の健康チェックなどを通し、生活習慣として健康観察を行うことができた。各学年の登校指導で、遅刻数が増加することがなかった。	①自己管理能力が身に付くような指導を続けたい。遅刻が続くような生徒に対して学年と連携しながら改善の方向へ導いていきたい。	①教職員は生徒のコロナ禍での健康管理に気を配っていた。コロナ禍で行動に制限がある中、高校生として必要な生活スキルを身に付けることは大切である。今後も生徒への声かけや健康観察をとおして、自己管理能力が身につくように指導の継続を望む。	①コロナ禍における健康観察や登校指導を継続したことにより、基本的生活習慣の確立と自己管理能力の定着を図ることができた。職員からの声かけがなくても自らを律する心の育成が今後の課題となる。	①習慣化した健康観察を各自の判断のもと継続しながら、基本的生活習慣の確立と自己管理能力の定着を図る。
		②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。	②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。	②新たな生徒支援体制で教育相談等に取り組み、SC・SSW と情報共有しながら生徒の現状を把握する。また、えびな支援学校のセンター的機能を活用する等、個々の教育相談の機会と充実を図る。	②新たな生徒支援体制を軸にした教育相談における実施状況、生徒情報の共有が機能したか。えびな支援学校との連携活動の実施回数はどうだったか。	②組織的な支援体制が確立され、教育相談の実施や現状など明確にすることで、生徒情報の共有を行うことができた。またえびな支援学校とも２回連携を実施し、解決に向け協力してもらった。 学校生活アンケートを学期末に２回実施し、必要のある生徒には面談を実施し、支援することができた。	②えびな支援学校との連携を今以上に増やし、様々なケースによる悩みが解決できるよう実績を積み重ねたい。 学校生活アンケートだけでなく校則などの認識についても生徒に問い、規範意識の醸成を目指したい。	②えびな支援学校との連携を増やして、生徒の悩みが解消されるような取り組みを継続していることを評価する。インクルーシブ教育は高校では早くから取り組んでいて、最近の大学生を見てもインクルーシブ教育が進んでいることを感じる。引続き、えびな支援学校との連携継続を望む。	②教育相談コーディネーターを中心とした新たな支援体制が徐々に機能し始めた。また、えびな支援学校との連携による生徒支援も実績を重ねつつある。今後も継続して、生徒個々が抱える問題に丁寧に対応していくことが課題として挙げられる。	②教育相談コーディネーターを中心とした新たな支援体制をさらに進め、生徒一人ひとりの個性や状況に応じた支援を、職員間の情報共有を密にして丁寧に対応していく。

3	進路指導・支援	①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。 ②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。	①引き続きコロナ禍での状況の下、勤労観・職業観を育成するため、従来の方策に感染症防止策を盛り込み活動の継続を図る。 ②生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路説明会・進路別ガイダンスを計画的に行う。	①勤労観・職業観の意識向上を目指し、協力企業へのアプローチや生徒の事前指導を徹底し、コロナ禍でも体験できる体制を構築する。 ②面談等を通じて生徒一人ひとりの進路希望を把握し、実現に向けたサポートを全職員で実施する。	①コロナウイルス感染症対策を講じた工夫ある活動ができたか。また、農業体験活動やインターンシップ活動等への参加者が増加したか。 ②個別に丁寧な進路指導を行い、生徒の希望どおりの進路実現が図れたか。進路別説明会が計画どおり実施できたか。	①企業と連携を図り、コロナウイルス感染症対策を施した活動ができた。農業体験活動の参加者は昨年と変化はなかったがインターンシップへの参加者が 10 名増加した。説明会は予定通り５回実施した。 ②生徒の希望に沿った進路実現が図れた。特に大学への進学実現が昨年度より良くなった。放課後やLHRを通して進路ガイダンスを実施し、計画以上の進路説明会ができた。	①農業体験活動では実習先の確保が課題である。 インターンシップでは受入企業と個別対応が必要であるのと、巡回指導など担当者の負担となっている。 ②就職希望にハローワークの求人票を活用せず、自己開拓で決定する生徒が増えている。さらなる指導が必要と考える。	①インターンシップへの参加が増加したことは評価に値する。今後もインターンシップや企業と連携を図り、勤労観・職業観を身に付け、必要な資格取得ができるような指導を望む。また、農業体験・実習の確保や農家体験をとおしての交流をお願いしたい。 ②大学への進路実績が上がっていることは進路指導の成果が出ていることと評価する。就活も SNS を使用した情報が多くなり、複雑な対応を迫られることも多くなっていると思うが適切な対応を願う。	①コロナウイルス感染症対策を施しながら、インターンシップ参加者が増えたことを評価したい。次年度以降は農業体験活動の実習先確保とインターンシップへの教員のかかわり方を課題としたい。 ②進路実現達成に向けたガイダンスを昨年以上に実施して、進学において昨年度実績を上回ることができた。来年度も生徒個々の希望を軸とした支援を継続する。	①農業体験活動の実習先確保とインターンシップ受入企業との調整を密にして、負担軽減を考慮した巡回指導を組立てる。 ②多様化する生徒の進路希望に対応するため、より丁寧な進路ガイダンスと個別指導を心がける。
4	地域等との協働	①学校の教育力（農業）を活かし、地域との協働・連携を一層強化する。 ②えびな支援学校との連携・交流をとおして、インクルーシブ教育の推進を図り、いのちや人権を尊重する精神を育む。	①産業界との連携を進め、農業教育を活かした本校の活動を地域に発信し、地域との協働活動を推進する。 ②えびな支援学校との連携・交流を様々な場面で行い、インクルーシブ教育への理解を深める。	①農業科各学科の学習活動や農業クラブ活動を通じて、地域との連携・協働活動を行う。 ②えびな支援学校と連携して、農業クラブを中心に動植物との触れ合いを通してインクルーシブ教育を深める活動を展開する。	①地域からの要望を踏まえつつ、コロナウイルス感染症防止策を講じながら地域との連携・協働活動が令和３年度実績を上回ることができたか。 ②えびな支援学校との連携・交流を通して、参加した生徒の意識が変容したか。	①これまでの連携状況を振り返り、えびな支援学校と様々な面で見直しを行った。科目等との連携や学科とのつながりを強化できるようにすり合わせを継続して協議している。来年度に向けて計画的な連携関係を引き続き構築したい。 ②科目「福祉と農業」をはじめ、歩行演習や動物見学など本校の生徒と交流を深めながらインクルーシブ教育を推進した。また、連携会議を重ね、これからも持続可能な連携関係を築けるよう関係各所と協議を重ねた。	①両校の時程が異なることや下校時刻との兼ね合いから、限られた時間の中でどのような連携ができるかが課題である。また、えびな支援学校にとっても本校にとっても実のある連携事業となるようにしたい。 ②科目「福祉と農業」が来年度最終年度となるため、それを機に連携関係がなくなることのないように検討を重ねたい。また、田植えや稲刈りなど季節に応じた農業の魅力が教育できるような仕組みを作りたい。	①コロナ禍の影響もあり、地域との交流が制限されながらも継続的な取組みが実施されていたことは評価する。えびな支援学校との連携事業や地域のイベント参加等、今後も積極的に地域協働事業を継続させてほしい。 ②科目等の改廃もあるが、活動の継続と新たな試みに挑戦してもらいたい。また、農福連携を志向する就農希望者も増えてきており、福祉を身近の感じられるインクルーシブ教育の充実が図られている。継続的な活動を期待する。	①昨年度に比べ地域との連携・協働活動は再開されつつある。地域が期待する活動に対して、貢献できるように取組む。 ②えびな支援学校との連携については、特定教科に限らず、持続可能な連携関係が築けるように協議した。担当者以外の学校全体としてインクルーシブ教育を深める活動を展開することが課題となる。	①徐々に緩和されつつある地域協働・連携活動を以前のように進め、本校の取組みを地域に発信する活動を活性化させる。 ②えびな支援学校と連携・交流を深める中で、学校全体にインクルーシブ教育を浸透させる。
5	学校管理 学校運営	①学校施設環境を整備し、防災・防犯意識を高め安全教育を充実させる。 ②事故・不祥事防止の徹底を図り、信頼される学校づくりを推進する。	①継続して学校施設環境（職場環境及び学習環境）の整備と安全教育の充実を図る。 ②風通しの良い職場づくりを意識し、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①安心で快適な職場環境と学習環境を整備する。また、実験や実習において本校の定める農作業器具等の取扱基準を順守する。 ②テーマを持ちながら事故・不祥事防止研修を実施する。	①校舎や農場においての安全・安心な学習環境の整備が行えたか。また、実験や実習での事故防止ができたか。 ②事故・不祥事防止研修会が計画どおり実施できたか。	①コロナ禍に対応した教室換気状況を見える化するため、CO_2濃度計測器を各ＨＲ教室に設置した。実験実習における事故防止は注意したが細かな事故は防げなかった。 ②毎月の職員会議冒頭にテーマを持った事故・不祥事防止研修会を毎回実施した。	①生徒が安全・安心に学校生活を送れるように環境整備と事故防止に継続して努める。特に事故防止については職員及び生徒に日頃より注意を促す。 ②計画どおり実施はできたが、今後は外部講師の講演なども取り入れる工夫を考える。	①生徒が安全・安心な学校生活が送れるように今後も継続した管理運営をお願いする。また、安全教育の充実を図り環境整備と事故防止に努めている点とコロナ禍における授業環境への対応を評価する。 ②学校全体として毎月の事故・不祥事防止研修会を実施している点を評価する。これからも生徒にとってより良い高校になることを期待する。	①生徒が安全・安心に学校生活が送れるような学習環境の整備と学校運営において評価をいただいた。実験や実習での事故防止は継続した課題として残る。 ②事故・不祥事防止研修会はテーマを変えながら毎月実施できた。今後は外部講師を招くなどの内容を工夫する。	①安全・安心な学校生活の実現に向けて、今後も継続した学習環境整備と事故防止に努める。 ②引き続き、事故・不祥事防止に努め、外部講師の講演など研修会を充実させる。